

確実な復興と地域創生の推進！

原子力災害からの復興を国に問う全員協議会

8月6日に開催された全員協議会において、国の復興庁、資源エネルギー庁、及び原子力災害現地対策本部に対して、被災者支援・生活再建のための取組や、福島復興・再生への取組について質問しました。



問① 復興公営住宅の充足状況について

答⇒ 現時点で把握している入居希望戸数(4,890戸)で整備しているが、実際の応募状況を勘案しながら必要に応じ整備戸数の検討も考えたい。

問② 仮設住宅の供与期間の延長について

答⇒ 制度上1年ごとの延長であるが、早い時期(10ヶ月程度前)までに延長決定するなど、先を見通した生活の計画が立てられるよう運用で対応していきたい。

問③ 生活弱者に対する生活支援について

答⇒ 国は、避難元市町村及び避難者を受け入れている市町村と緊密な連携を図りながら支援していきたい。

問④ 見守り等の活動の推進について

答⇒ 福島再生加速化交付金を活用した、生活支援相談員の拡充やスキルアップを可能としている。

問⑤ 心の復興事業の実施について

答⇒ 仮設住宅入居者だけでなく、周辺住民や公営住宅の入居者が一体となって活動できるよう支援していく。

問⑥ 損害賠償について

答⇒ 平成27,28年の2年間を自立していただくための重点支援期間として適切な対応を行い、その後は個別の事情を踏まえた対応により、賠償が的確かつ迅速、十分に行われるよう東京電力を指導していく。

問⑦ 被災企業の再建支援について

答⇒ 企業復興支援ネットワークにより地方自治体、産業支援機関、商工会議所商工会などの担当者と情報を提供し協力関係を構築している。

問⑧ 事業・生業の再建・自立や働く場の確保のための支援策について

答⇒ 国、県、民間からなる官民合同チームで、約8,000社を訪問し個別の具体的なニーズを把握し、個別支援を行っていく。

問⑨ 企業立地促進プロジェクトについて

答⇒ 経済産業省所管だけでなく他省庁の業界団体100以上を訪問し出来るだけ早いタイミングで企業立地を成立させたい。

問⑩ イノベーション・コースト構想の具現化に向けた取組について

答⇒ イノベーション・コースト構想推進会議において、全体的な進捗状況を管理し調整を図っていく。

問⑪ 福島12市町村の将来像に関する有識者検討会の提言について

答⇒ この地域が着実に復興し世界に誇れる技術を備えた新たな産業基盤が根付いていく希望が持てるビジョンと考えている。

沖縄県営平和祈念公園等を調査

(7月28日~30日) (土木常任委員会県外調査)



平和祈念公園にて

東日本大震災を後世に伝えるため「復興祈念公園整備」をするための基本構想の策定が進められております。また、小名浜港や相馬港の港湾復興整備が進む本県港湾の利活用促進や道路整備・災害復旧工事における関連事業の展開などの参考とするため、福岡県及び沖縄県を訪問調査いたしました。

竹下復興大臣が来訪

(9月5日)

根柄山地区内の復興公営住宅の造成工事の進み具合や、安達ヶ原ふるさと村の元気キッズパークの利用状況などを調査するため竹下復興大臣が来松され、遊佐久男は、地元県議会議員として現地を案内、その後、二本松市長とともに意見交換を行いました。



元気キッズパークへ案内

復興公営住宅の造成工事の状況を調査(油井字根柄山地区内)

174億7千3百万円の補正予算を可決 (9月定例議会)

今任期中の最終議会となる9月定例会は、関東・東北豪雨災害の復旧工事調査予算(13.74億円)を含む174.73億円の補正予算などを審議しました。(裏面参照) その内土木常任委員会においては、災害復旧工事調査予算や、市内石倉地区に整備される復興公営住宅内の生活サポート施設関連事業予算などを審議し提案のとおり議決いたしました。

県道石沢字荻田線(二本松市太田地区内)



復旧前



復旧後

(10/9 通行止解除)

関東・東北豪雨災害からの早期復旧に向けて

2つの台風による線状降水帯の発生で局所的に豪雨が発生、二本松市や伊達市、南会津町、昭和村などで大きな被害があり、発災直後の9月11日に自民党豪雨災害対策本部で調査を行い、県関係当局に早期の復旧要請を行い、迅速な復旧工事につながりました。また、9月25日の土木常任委員会においては、応急復旧工事により被災後約1週間で行き止まりとなったR115号伊達市霊山町石田地区内の状況を調査いたしました。

国道115号(伊達市霊山町石田地区内)



復旧前



復旧後

(9/17 通行止解除)